

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 5 月 23 日 (2019.5.23)

【公表番号】特表 2014-523007 (P2014-523007A)

【公表日】平成 26 年 9 月 8 日 (2014.9.8)

【年通号数】公開・登録公報 2014-048

【出願番号】特願 2014-524286 (P2014-524286)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/13 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/13 5 0 5

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 31 年 3 月 27 日 (2019.3.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 3】

【図 6】図 6 は、完全な偏光子の間の本発明のスイッチング層の透明状態での透過特性のスペクトル測定の結果の図を示し、ここで、ツイストネマチック液晶層は、暗い状態と透明状態との間をスイッチングすることが第一の最小値においてすなわち $d \cdot n \sim 0.5$ 、または、第二またはより高い最小値においてすなわち $d \cdot n > 0.75$ 、のいずれかであるように配されている。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 4】

入射光の透過とともに熱の透過についても、所望の実質的な削減に関して、ねじれネマチック液晶相が第一の最小値において暗い状態と透過状態とをスイッチングする $d \cdot n$ がほぼ 0.5 (ここで d はスイッチング層内のねじれネマチックセルの厚さであり、 n は光学的複屈折である) であるものを考えることができ、それは有利である。ねじれネマチック液晶層を、 $d \cdot n$ が約 0.5 である第一の最小値においての作動をさせると、すなわち、 $d \cdot n$ が 0.25 および 0.75 の間、好ましくは、 0.35 および 0.65 の間、さらに好ましくは、 0.4 および 0.6 の間、最も好ましくは、 0.45 および 0.55 の間の値を有するようにして作動させると、透明状態において、NIR 領域では著しい透過光の減衰が起き、このことは少なくとも一つの偏光層によってもたらされる偏光と対応する透過光の減衰についての選好性に付け加わることがらである。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 5】

そのような層配列は、ねじれネマチック液晶層が透明状態であるときでさえも減少させなければならないような、多量の入射光がある地域で用いるのに適する。

本発明の別の態様は、ねじれネマチック液晶層が、 $d \quad n > 0.75$ 、好ましくは、 > 0.8 、より好ましくは、 > 0.85 、最も好ましくは、 > 0.9 の値を有する、第二またはより高次の最小値のところにおいて、ひとつの暗い状態とひとつの透明な状態間をスイッチングするように配置されたものである。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

$d \quad n > 0.75$ である、すなわち第二またはより高い最小値で透明状態であるねじれネマチック液晶層は、NIR領域の入射光透過に著しくは影響を与えない。したがって、ねじれネマチック液晶層が透明状態および暗い状態間をスイッチするとき、NIR領域の透過特性に大きな変化がある。この層配列は、好ましくは、ねじれネマチック液晶層の、透明状態でできるだけ多くの光透過を有することおよび暗い状態でできるだけ多くの光および熱の透過を減少することが望まれる地域で用いられる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0062

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0062】

図6の図式的測定結果は、スイッチング層(2)が、第一の最小値のところで暗い状態と透明状態の間のスイッチングが行われる $d \quad n \sim 0.5$ のものである、層配列(1)の実線(10)で示されている透過特性と、第二またはより高い最小値のところで暗い状態と透明状態との間をスイッチングする $d \quad n > 0.75$ のものである、層配列(1)の点線(11)で示された透過特性との間の差を明確にしている。両方の線は、完全な偏光子の間にあるデバイスの透明状態を示す。透明状態が第一の最小値である $d \quad n \sim 0.5$ のものは、透明状態が第二またはそれよりも高い最小値である $d \quad n > 0.75$ のものと比較してNIR領域のより低い透過を明らかに示す。透明状態であってもNIR領域における透過の減衰が大きいので、上記第一最少値の $d \quad n \sim 0.5$ のスイッチング層(2)の配置は、高い入射光の明るさと、熱透過は常に減衰することが必要である地域において用いるのに適する。これとは対照的に、上記第二またはより高い最少値において暗い状態と透明状態との間をスイッチングするようにスイッチング層(2)が配置された $d \quad n > 0.75$ の層配列(1)は、変化なく強い熱透過減少が常に起きるものよりも、透明状態および暗い状態間でエネルギー透過の差がより大きいものを、より好む地域において、好ましくは用いられる。